

# Newsletter for JADR

## I. 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition (ニューオーリンズ大会)を終えて

JADR 会長 森山 啓司

(東京科学大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野)

2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition (102nd General Session & Exhibition of the IADR, 53rd Annual Meeting of the AADOCR, 48th Annual Meeting of the CADR) が、2024年3月13日-16日にかけて、米国ルイジアナ州ニューオーリンズにおいて開催されました。新型コロナウイルスの世界的感染拡大が収束してから初めてとなる北米大陸での開催とあって、昨年の南米コロンビアのボゴタ大会と比べ参加者はかなり増えて活気が戻ったような気がいたしました。ニューオーリンズは米国有数の観光地で、ジャズ発祥の地とし

ても名高い場所で、至る所から楽器の音色が聞こえてきて人々と音楽がとても近い距離にあるを実感させられる街でした。

開会式は Ophir Klein IADR 会長 (当時) のスピーチで幕が切って落とされました。また、各賞受賞者の紹介では、矢谷博文先生 (大阪大学名誉教授) のお名前が Distinguished Scientist Award in Research in Prosthodontics and Implants Award 受賞者としてアナウンスされました。JADR としても大変喜ばしいニュースであり、矢谷先生には心よりお喜び申し上げます。そして、この開会式のフィナーレを飾ったのは、日本人として4人目の IADR 会長に就任される今里 聡 先生 (大阪大学) で、“We are the one who make a Brighter Day, so Let’s Start Research!” と題する歯学研究の発展に向けた情熱溢れるお話の後、ステージ後方に準備されたエレキギターを手に取り、マイケル・ジャクソンの名曲 “We are the world” のメロディーにご自身のスピーチのタイトルを歌詞に乗せて熱唱され、会場を埋め尽くした参加者からスタンディングオベーションが送られていました。日本から誕生した IADR のニューリーダーが、世界の歯学研究者たちに温かく迎え入れられた瞬間でもありました。後日行われた IADR 会長就任セレモニーでは、任期を終える Klein 会長からメダルを引き継がれ、正式に第101代の会長に就任されました。今里先生のこの快挙に対しまして心よりお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍とご

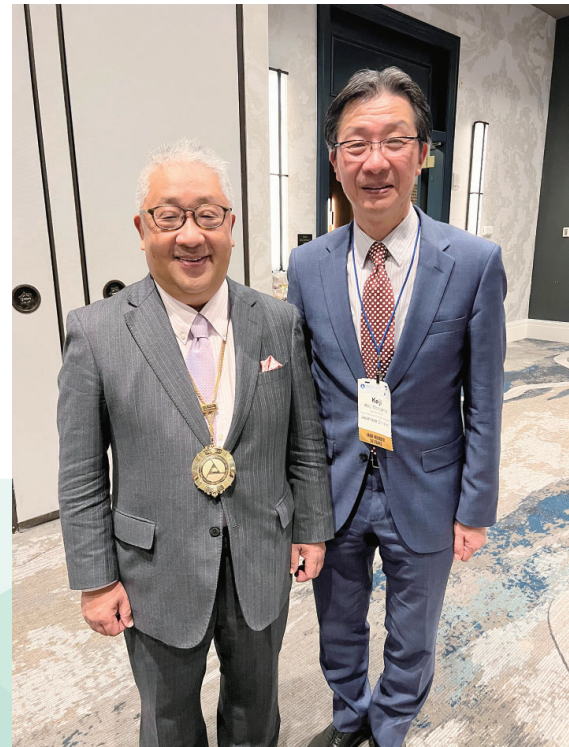


発展を祈念いたします。本セレモニーでは、Asian Pacific Regional Board Member の任務を終えられた高橋信博先生（東北大学）にも、Klein 前会長から感謝の盾が送られました。高橋先生の IADR APR におけるご貢献に深く感謝申し上げます。なお、本大会にて、Pamela Yelick 先生（米国）が次期会長に、Jennifer E. Gallagher 先生（英国）が副会長にそれぞれ着任されました。

さらに今大会中に行われた Hatton Award Competition には、JADR 選出の Hu Chen 先生（九州大学）、Lin Xu 先生（大阪大学）、森山輝一先生（大阪大学）の3名が参加されました。皆様のご健闘をたたえとともに、今後ますますのご活躍を期待しております。

さて、話題は IADR Asian Pacific Region (APR) へと変わりますが、2024年8月22日に Inaugural Workshop of the IADR APR Mentor-Mentee Programme がオンラインにて開催されました。Paul Cooper IADR APR 会長、今里 IADR 会長のご挨拶につづき、安藤俊範先生を含む7名の APR 地区選出のシンポジストが講演されました。また、その後半では、Nick Jakubovics IADR 編集長（英国）、Lijian Jin 元 IADR APR 会長（中国）、Saso Ivanovski 元 ANZ 会長（オーストラリア）に加えて、日本から高橋信博 元 IADR APR Regional Board Member が若手研究者に対して Mentor の立場から示唆に富んだアドバイスを送られ、大変有意義なシンポジウムとなりました。IADR APR では今後もオンラインをベースとしたイベントが開催される予定です。JADR 会員の皆様におかれましては、是非積極的にご参加いただくようお願いいたします。

第72回 JADR 総会・学術大会は、後藤 哲哉 会長（鹿児島大学）のもとで、2024年11月16日・17日の2日間にわたりカクイックス交流センター（鹿児島）にて開催されます。IADR の今里 聡 会長、Christopher Fox CEO（米国）、KADR の Youngnim Choi 会長（韓国）をはじめとする特別講演、シンポジウムなど、多彩なプログラムが用意されています。また、2025年の IADR Hatton Award Competition の JADR 代表者によるプレゼンテーションも予定されています。皆様と鹿児島でお目にかかれますことを楽しみにいたしております。



## II. IADR 会長に就任して～ Let's start research !

Inauguration as the President of IADR – Let's start research !

IADR 会長 今里 聡

(大阪大学大学院歯学研究科 歯科生体材料学講座)

私、本年3月のニューオリンズでの大会最終日に、IADRの第101代Presidentに就任させていただきました。1920年の設立から100年以上に及ぶIADRの歴史の中で、作田守先生(第75代会長, 1998～1999, 現大阪大学名誉教授), 黒田敬之先生(第82代会長, 2005～2006, 現東京医科歯科大学名誉教授), 安孫子宜光先生(第91代会長, 2014～2015, 現日本大学松戸歯学部名誉教授)に継いで日本人としては4人目の会長就任となり、身に余る名誉なことと感じております。ご存知のように、IADRでは、会員の投票によってVice President(副会長)を選出し、これに選ばれると、順にPresident-elect(次期会長), President(会長), Immediate Past President(前会長)に就任して、計4年間、会の運営に当たる仕組みになっております。お陰様で、JADRの皆様を中心に多くの方々にご支持をいただくことができ、2022年にVice Presidentに選出され、本年3月より会長を拝命した次第です。JADR会員皆様方の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

1989年のIADR入会以来35年の会員歴の中で、ごく数回の大会を除いて、ほとんどのIADR General Sessionに参加し、研究発表やシンポジウムでの講演等を行わせていただきました。それと同時に、入会当初から所属したDental Materials Groupにおいて、やがてProgram ChairやSession Organizerを仰せつかるようになり、さらにSecretary, PresidentとGroupの運営に関与させていただくうちに、Hatton Award本選の審査員を始めとしてIADR全体の運営にも深く関わらせていただくようになりました。そういった活動の中で、最も大きな財産として蓄積されたのが、分野を超えての友人・知人・共同研究者

のネットワークです。IADRのもとには、現在29のdivisionと19のsectionがありますが、さまざまな国に友人・知人がいるお陰で、Vice Presidentの選挙の際にはJADR会員以外の方々からも多くのご支持をいただくことができました。IADRが世界の歯学のすべての分野を網羅する学会であり、そこでの人の繋がりがいかに重要かを改めて認識致しました。

3月のニューオリンズ大会でのOpening Ceremonyにおいては、「We are the ones who make a brighter day. So, let's start research!!」と題してIncoming Presidentとしての所信表明スピーチをさせていただきました。その中で、

“Active communication among the members”,

“Proper support of all members”,

“Partnership with related organizations”,

“Link of regions/divisions/sections”, and

“Encouragement of next generation researchers”.

という5つの項目に重点を置きたいと宣言し、頭文字をとって“growing APPLE policy”と名付けました。コロナ禍で制限を余儀なくされたネットワーキングを再活発化し、会員全員が研究への情熱を再燃させ、若き次世代の研究者たちが迷わず研究に取り組める、IADRはそのような活動のプラットフォームであるべきだという想いを基にした提案です。また、音楽の街ニューオリンズに因み、スピーチの最後に、名曲“We are the world”の歌詞を少し変えてギターを弾きながら歌わせていただきました。事前に事務局長の許可は得ていたとは言え、前代未聞のIncoming President Speechに面食らった参加者も多かったのではないかと思います。IADR会員皆に元気



Opening Ceremony での Incoming President Speech



前 President の Dr Ophir Klein とともに

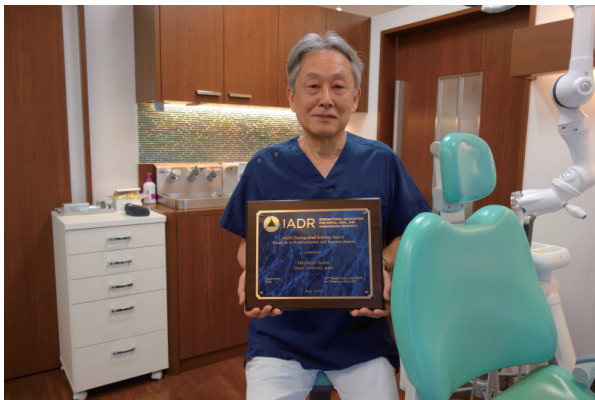
に頑張って欲しい、とくに若い会員たちに研究に従事することでより良き世界を作れるんだと呼びかけたい一心でのパフォーマンスです。はからずも Opening Ceremony の参加者から standing ovation を頂戴し、私自身も明るい歯学の将来を感じることができました。このスピーチは、IADR の web page 内の President 一覧のところから見るができます (<https://www.youtube.com/watch?v=IkEcBEtxVvE>) ので、よろしければご覧ください。

今年はちょうどパリオリンピックの年で、世界のさまざまな国のアスリートが集い、全力で競い合う様子をテレビでご覧になった方も多いのではないのでしょうか。新たに加わったブレイキンも含めて、すべての種目で感じるのは、その競技に心惹かれた若者達の熱い情熱の迸りです。IADR においても、そうありたいと思わずにいられません。Be passionate! Let's start research!

## Ⅲ. 第102回IADR New Orleans大会 (2024年度) 各受賞者報告, 参加報告

### 1. IADR Distinguished Scientist Award (Research in Prosthodontics and Implants Award) を受賞して

矢谷 博文  
(大阪大学名誉教授)



この度、幸運にも IADR Distinguished Scientist Award, Research in Prosthodontics and Implants Award 受賞の栄に浴することができました。この受賞は、私にとりましてこの上ない名誉であり、これに勝る喜びはありません。この紙面を借りて、小生を推薦いただいた方々や選考委員をはじめとして選考に関わっていただいた方々に感謝申し上げますとともに、これまで私の研究活動に関わっていただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

この度受賞しました IADR Distinguished Scientist Award は 17 の研究分野ごとに設けられており、私が受賞しました Research in Prosthodontics and Implants Award は、Prosthodontics と Implantology の 2 つの研究領域に属する scientist に授与される

賞です。本賞は、過去には日本から濱田泰三先生、赤川安正先生、古谷野潔先生の 3 名が受賞されております。このような著名な先輩方に続いて小生が受賞できましたことは誠に身に余る光栄に存じます。

繰り返しになりますが、今回の受賞は私一人の力によるものではなく、多くの方々のおかげです。まず私を一人前の科学者に育ててくれた多くの諸先輩、特に岡山大学在職中に薫陶を受けた山下敦岡山大学名誉教授ならびに鈴木一臣岡山大学名誉教授に厚くお礼を申し上げます。また、留学中に優れた科学者のあるべき姿を教えていただいた Prof. Jeffrey Okeson と Prof. Charles Carlson にも深く感謝申し上げます。さらには、受賞につながった研究を支えてくれた岡山大学と大阪大学の多くの教職員はもちろんのこと、様々な学会での出会いを通じて指導や助言をいただいた先輩方や逆に刺激をもらった同僚や後輩たちにも心より感謝申し上げます。

最後に、歯科補綴学および口腔インプラント学が今後ますます進歩し、人類のさらなる幸福に寄与できることを祈念し、受賞の挨拶といたします。

### 2. Pre-prosthetic Regenerative Science Award Competition 第 1 位を受賞して

森 里美  
(東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野)

本年 3 月に米国ニューオーリンズで開催された第 102 回 IADR 総会において、Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators First Place に選出され、大変光栄に存じます。この賞は、日本補綴歯科学会がスポンサーとなり、歯

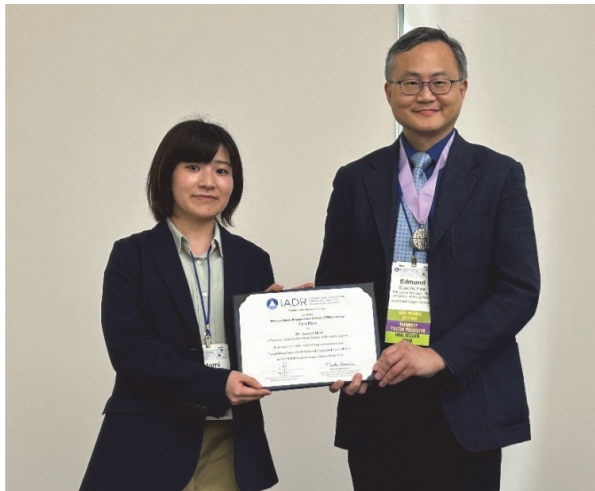
科補綴学に関連する再生医療など、幅広い学際的分野に焦点を当てた独創的な研究を発表した若手研究者に贈られるものです。

受賞発表は「Lyophilized bone graft material generated from iPSCs」という題で、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた新たな骨再生材料の作製方法に焦点を当てました。大規模骨欠損に対して、骨代謝と調和し完全に骨に置換される骨再生材料の開発が求められています。当研究室ではiPS細胞から試験管内で三次元的な骨様組織の作製法を確立し、これを凍結乾燥した不活化材料による骨再生技術を開発しています。iPS細胞から作製した骨様組織に対する凍結乾燥条件の影響を検討すると、特定の条件で乾燥した不活化材料は骨再生に関連するタンパク質を保持し、その抽出成分は試験管内で間葉系幹細胞の遊走・増殖能・骨芽細胞分化を促進しました。また、凍結乾燥条件は不活化材料の微細構造に影響し、特定の条件で短く直線的なアパタイト様結晶が得られることを示しました。また、動物実験では、特定の条件で凍結乾燥した不活化材料がマクロファージに作用し、免疫応答を調節する可能性を示しました。

凍結乾燥条件の最適化により、バイオ由来製品のさらなる品質向上が促進され、将来的には組織再生を含む医歯工学の発展に寄与することが期待されます。今回の受賞を励みに、今後も研究成果の社会実装に向けて一層の努力を重ねて参ります。

学会期間中には、ジャズの軽快な音色と多様な文化が織りなす彩り豊かなニューオーリンズの街並みを楽しみながら、自由な創造性に満ちた雰囲気に触れ、今後の研究活動へのモチベーションを高める貴重な経験を得ました。

最後になりますが、本研究の遂行にあたり、ご指導とご言葉を賜りました東北大学大学院歯学研究科分子・再生歯科補綴学分野の江草 宏教授、大川博子先生、新部邦透先生、ならびに研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



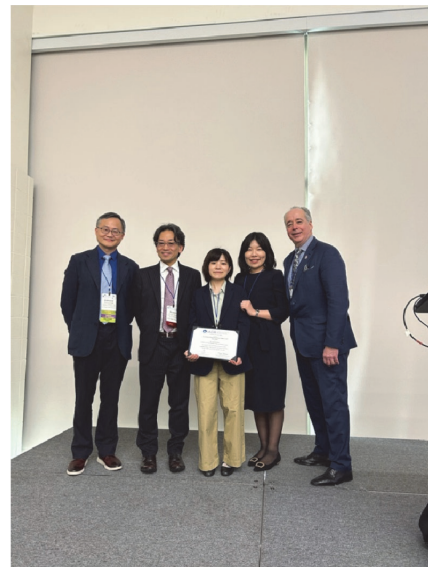
▲ 受賞会場にて  
(左から、筆者、IADR Prosthodontics Group 会長 Edmond Pow 先生)

### 3. 第 102 回 IADR 総会・学術大会参加報告

大川 博子

(東北大学大学院歯学研究科 分子・再生歯科補綴学分野)

米国ニューオーリンズで開催された 2024 IADR General Session & Exhibition に参加し、現地での様子をレポートさせていただきます。ニューオーリンズはルイジアナ州南部に位置し、広大なミシシッピ川に沿う三日月状の地形から、クレセントシティの愛称で親しまれている歴史ある美しい街です。今なおフランス領時代の建物が残るこの街の魅力は、学会に訪れた私たちにとっても特別なものとなりました。歯学研究のあらゆる分野の研究者が一堂に会する IADR、特に今回は数



(写真1) Prosthodontics Group 授賞式の様子  
左より、Dr. Edmond Pow、江草 宏教授、  
大学院 4 年森 里美さん、筆者、Dr. Kenneth S. Kurtz



(写真2) 教室から参加したメンバーで名物のガンボや  
クレオール料理を楽しみました。

年ぶりの対面での米国開催ということもあり、会場に足を踏み入れた瞬間、その規模と研究者の熱意やエネルギーに圧倒されました。対面での交流が生むコミュニケーションの深さや、直接的なフィードバックの価値を実感し、非常に充実した時間を過ごすことができました。

私が所属する Prosthodontics Group では、シンポジウム「Revolutionizing Prosthodontics - The AI-Enabled Future」が企画され、AIが補綴歯科学においてどのように応用されるか詳しく学ぶことができました。具体的にはAIを活用したスキャン技術の向上、補綴装置デザインのプロセスの効率化、インプラントプランニングの精度向上、さらにはAIを用いたバイオマテリアルの研究と開発の進展について理解を深めることができました。

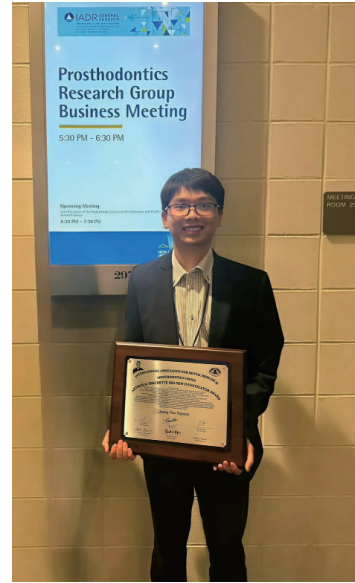
また、Prosthodontics Group では、再生補綴歯科治療の創成を目指す若手研究者に贈られる Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators という賞があります。大変光栄なことに、私の指導する大学院生の森 里美さんが、iPS細胞由来骨補填剤作製技術の開発について発表を行い、1位を受賞することができました。留学から帰国し、教員として初めて指導した大学院生が、4年間熱心に研究に打ち込み、受賞する姿を見たときには、感慨深いものが込み上げてきました。授賞式では、私の大学院生時代の指導教官であり、所属講座の主催者である江草宏教授とともに、私と森さんの3人で壇上で記念写真を撮影できたことも、素晴らしい思い出となりました。補綴歯科学研究に携わる若手の先生方には、ぜひ本賞にチャレンジしていただき、Prosthodontics Group のバイオロジー研究を一緒に盛り上げていけることを心より願っております。

月の満ち欠けに例えられるように、研究の過程や成果が時折見えにくいと感じることもありますが、確かな進展を遂げることで新たな可能性が広がり歯学研究が発展し続けることを願っています。今回の学会で得た知見やネットワーキングの機会を活かし、より良い成果を追求し続ける決意を新たにしました。最後になりますが、IADR への参加に際し、ご支援をいただきました共同研究者の先生方、分子・再生歯科補綴学分野の先生方に心より感謝申し上げます。

## 4. IADR Arthur R. Frechette Award in Prosthodontics

Nguyen Van Quang

(Division of Bio-Prosthodontics, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences)



It was a great honor and source of inspiration for me to participate in the 102nd General Session & Exhibition of the IADR in New Orleans, LA, USA. I am a graduate student from Niigata University, and this was my first time going to America and presenting my research at such a big international conference. I am genuinely appreciative of the chance to discuss with distinguished colleagues and to gain knowledge from insightful presentations.

My presentation, titled "Enhancing Bone Regeneration by Controlling Oxidative Stress: An *In Vivo* Study", was awarded 1<sup>st</sup> place in the biological category of the Arthur R. Frechette 2024 New Investigator Award. This prestigious award is given to young investigators who produce outstanding original research in the field of prosthodontics worldwide. I am deeply grateful to the judges from the IADR Prosthodontics Research Group for recognizing my work. This award stands as the most significant achievement in my academic journey.

I would like to extend my heartfelt gratitude to my supervisors, Professor Uoshima Katsumi and Dr. Akiba Yosuke, for their invaluable guidance and unwavering support. My sincere thanks also go to all the faculty members and graduate students of the Division of Bio-Prosthodontics at Niigata University, as well as my friends, for their assistance and valuable feedback during the preparation of my presentation. Lastly, I would like to thank JADR for the opportunity to share my remarkable and truly unforgettable experience in this newsletter.

## 5. 第 102 回 IADR 総会・学術大会に参加して

中島 純子

(東京歯科大学オーラルメディスン・病院歯科学講座)

2024年3月13日～16日まで、アメリカ合衆国ルイジアナ州のニューオーリンズで、第102回IADR総会・学術大会が開催されました。昨年に続いての対面での開催になりましたが、直前にCOVID19が5類に変更した昨年に比べて海外渡航へのハードルが下がり、またアクセスが比較的容易な開催地とあって、日本からの参加者も多く活気のある学会となりました。

本大会オープニングセレモニーでは新IADR Presidentに就任された今里 聡教授のスピーチがありました。世界的な健康やウェルビーイングの促進や、国際的なscientific societyを推進する上で、化学的卓越性、社会的責任そして科学的なコミュニティの形成は欠くことのできない基盤であり、歯科領域の研究の発展につながるとお話されました。また、Growing APPLE policyとして5つの目標を述べられました。セレモニー開始時から舞台上に置かれたエレキギターが気になってはおりましたが、スピーチの最後には先生のギターと弾き語りですべての参加者が「We are the world」の替え歌を会場の参加者と合唱、スタンディングオベーションとなりました。

今回、参加した中で新鮮だったプログラムは、Hands-on Workshop Proposal : Becoming an effective peer reviewer というハンズオンセミナーです。英文誌の査読の依頼を受ける機会がありますが、査読方法について体系的に学ぶ機会は多くはありませんでした。このセミナーでは、査読の要点についての講義とともに、実際の英論文を渡され、Introduction, Material and Methods, Results, Discussion などのPeer reviewer checklistに基づきコメントを記載して、グループごとに話し合いを行うというものでした。英語がネイティブの人の参加がほとんどでしたので、査読の方法を学ぶ以前に英語のreading, writing, speakingすべてを試されるようで、頭はフル回転、緊張感のあるハンズオンとなりました。このようなハンズオンとは予想もせず、とても気楽に参加してしまい、セミナー中は参加したことを少々後悔しつつも、振り返ると査読時の着目点を理解することで、投稿時にも有効な情報を得ることができました。

学会を通じ、自分の専門分野の学術大会では接することがない領域の発表やシンポジウムを耳にすることができ、新鮮な風を吹き込んでもらうことができました。得た知識や経験を糧にしていきたく思っております。

## IV. IADR hatton Award 本選を終えて

### 1. Hatton Award 2024 最終選考を終えて

Hu Chen

(Section of Oral and Maxillofacial Oncology, Division of Maxillofacial Diagnostic and Surgical Sciences, Graduate School of Dental Science, Kyushu University)

I am very pleased and honorable to be selected as the finalist from JADR to present my research, Effects of CD4<sup>+</sup> Cytotoxic T Lymphocytes in Oral Squamous Cell Carcinoma, at the 2023 Hatton Award competition. I would like to express my deepest gratitude to the professors and staff of JADR who supported me during the selection process for giving me the opportunity to finally present in such a wonderful conference together with candidates from all over the world.

This was my first overseas presentation at international conference and also my first time going to United States. What is more embarrassing is that I encountered many unexpected incidents, such as submitting incorrect personal information on the visa application, catching a cold and having a fever during the conference, and almost missing our flight back to Haneda Airport due to a delay. Finally, I was fortunate to complete the presentation and learned a lot from those outstanding scholars from around the world. I am very grateful that IADR and JADR committee can give me this opportunity.

Lymphocytes, especially CD8<sup>+</sup> and CD4<sup>+</sup> T lymphocytes play a crucial role in tumor immunity by identifying and destroying cancer cells. What I am studying is one of the subsets of CD4<sup>+</sup> T lymphocytes, CD4<sup>+</sup> cytotoxic T lymphocytes (CD4<sup>+</sup> CTLs). Actually, it is a CD4<sup>+</sup> T cell subset that has recently begun to be recognized and widely reported in COVID-19 and some autoimmune diseases. Generally speaking, CD4<sup>+</sup> T cells are different from CD8<sup>+</sup> T cells known as killer T cells or CTLs and do not have cytotoxicity, so they lack the ability to directly kill cells. Instead, they tend to produce various cytokines to assist other immune cells and are therefore also called helper T cells. Interestingly, some CD4<sup>+</sup> T cells can exhibit cytotoxicity and induce apoptosis of the cells that express MHC class II molecules. They were identified and assigned as CD4<sup>+</sup> CTL, and in the tumor microenvironment, they also can exhibit a phenotype similar to that of PD-1<sup>+</sup> exhausted CD8 T cells: high expression of CTLA-4 and CXCL13. They may therefore be associated with B lymphocytes and have a suppression effect on tumor immunity.

Finally, I would like to express my deep gratitude to Professor Shintaro Kawano, Professor Masafumi Moriyama and Professor Seiji Nakamura for their kind guidance. Furthermore, I am profoundly

grateful to Assistant Professor Naoki Kaneko for his direct supervision in carrying out this research. Lastly, I want to extend my appreciation to everyone in the Section of Oral and Maxillofacial Oncology at Kyushu University Graduate School of Dental Science for their constant assistance and encouragement.

### 2. Hatton Award 2024 最終選考を終えて

森山 輝一

(大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学講座)

この度、2024年3月にアメリカ合衆国、ニューオーリンズで開催された、102nd General Session & Exhibition of the IADRでの2024 Hatton Award Competitionにおいて、JADRでの選考を経た最終候補者として発表させていただく機会をいただきました。このような歴史ある学会でJADRの代表の1人として発表させていただき、選考会等でお世話になった先生方、ならびにJADR事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

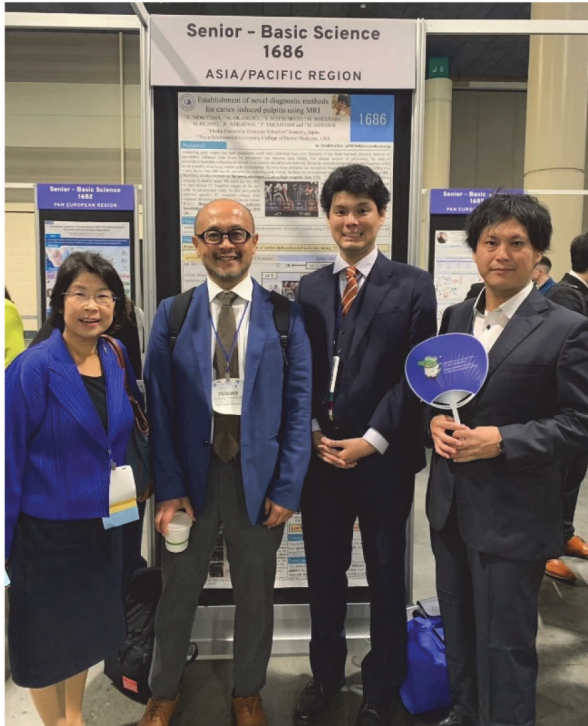
Hatton Award Competitionでは、“Establishment of novel diagnostic methods for caries-induced pulpitis using MRI”という演題を発表させていただきました。近年、歯髄保存の重要性がより注目されており、不可逆性歯髄炎と診断された症例であっても、健全歯髄を選択的に保存可能な断髄法の有効性が見直されています。しかし、現在の歯髄診査技術では正確かつ客観的な診査をおこなうのは困難であり、断髄の際に重要となってくる、歯髄組織の除去範囲の決定については術者の経験に頼る所が大きいのが問題点であると指摘されています。本発表ではこのような問題点に対して、医科領域において軟組織の画像診断技術として広く利用されているMRIを用いることにより新たな活路が開けるのではないか、という着想の元研究をおこないました。実験の結果、MRIにて歯髄炎の状態を詳細に観察可能であること、そして、MRIにより不可逆性歯髄炎に陥っている領域を正確に観察・診断できることを明らかとしました。この実験結果は、MRIによる歯髄炎の術前診断、さらには術中診断に必要な不可欠な、不可逆性歯髄炎の分子マーカーの探索研究へと繋がる非常に有意義なものであると自負しております。かつては医科領域でしか用いられていなかったCTが、現在では歯科用に改良されたCBCTとして広く用いられているように、今後のさらなる研究により、MRIを始めとした様々な診断技術が歯科領域に導入されていくのではないかと期待しております。

コロナ禍もありましたので、私自身久しぶりの海外渡航であり、国際学会への現地参加はこのIADRが初めてでした。そのため発表だけでなく、渡航に向けた様々な準備や現地でのやり取り、現地開催でのIADRの活気など全てが大変貴重な経験となりました。また同分野の海外の研究者と直に交流することにより、歯髄研究における最先端の知見にも触れ



ることが出来ました。残念ながら Hatton Award の入賞は叶いませんでしたが、今後さらなる研究をおこなっていくための大きなモチベーションを得られたと感じております。

最後になりますが、本研究の遂行にあたり御指導を賜りました大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学講座 林 美加子教授をはじめ、本研究の遂行を御支援くださいました共同研究者の先生方にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。



Hatton Award finalist のポスター発表会場にて  
左より、林 美加子教授、高橋 雄介講師、  
森山 輝一（筆者）、岡本 基岐先生

### 3. Memorable JADR 2023 and IADR 2024

Lin Xu

(大阪大学大学院歯学研究科顎顔面口腔矯正学教室)

It has been a truly memorable experience to present my PhD research at the JADR 2023 at Tohoku University and IADR 2024 in New Orleans. I would like to express my sincere gratitude to the JADR councilors and organizers for making this incredible opportunity possible.

The Hatton Award competition was both a challenge and an invaluable learning experience. The restriction of four presentation slides trained me how to present my research story effectively in a concise yet engaging manner. Furthermore, the insightful feedback I received from the panel of judges greatly deepened my understanding of current trends in dental and craniofacial research.

During the presentation and poster sessions, it was thrilling to meet and interact senior researchers whose names I have often encountered in textbooks and publications. Talking with these experts was truly inspiring.

I also had the pleasure of connecting with dental students from various countries, broadening my perspective on global research. Memorable highlights include forming new friendships with peers from Australia, the US, and Thailand. This international experience will leave a lasting impact on my future.

Finally, I would like to extend my heartfelt thanks to my supervisor, Professor Takashi Yamashiro; my advisor, Associate Professor Hiroshi Kurosaka, and my lovely lab members for their continued support throughout my PhD journey. Because of them, I've had a wonderful PhD experience. Thank you!



Photo: Left: Anastasia (The University of Sydney) Right: Lin Xu

## V. IADR Council Meeting 報告

JADR 会長 森山 啓司

(東京科学大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野)



IADR Council Meeting が、2024年3月12日の午後1時から5時(現地時間)にかけて、米国ルイジアナ州ニューオーリンズの Ernest N. Morial Convention Center で開催されました。IADR 執行部として 今里 聡 次期会長(大阪大学)と高橋信博 APR Regional Board Member(東北大学)が会場の方前雑壇に着座され、林 美加子副会長(大阪大学)と私は JADR の代表の Council Member として指定されたフロアの円卓にて会議に参加いたしました。

冒頭に設定された Interactive Council Feedback Session においては、General Session における発表形式(口演、ポスター)のあり方について意見交換がなされ、学術大会の質向上に向けた検討が今後も継続して行われることになりました。

続いて議題、議事録が承認された後、次第に従って議事が進行いたしました。JADR に関連する内容を以下にかいつまんでご報告させていただきます。

### 【審議事項】

- 選挙結果に基づき以下の候補者が IADR Vice-President (2024-2025) に選任された。
  - Jennifer Gallagher 先生 (PER), British Division, Global Oral Health Inequalities Research Network
- 2024-2025 IADR committees の委員が承認された。
 

【JADR 会員の委員就任(抜粋)】

Fellowships Committee : 大浦 清 先生 (大阪歯科大学)

Membership and Recruitment Committee :

Guang Hong 先生 (東北大学)

Nominating Committee : 中村誠司先生 (長崎国際大学)

Awards Review Committee : 森山啓司 (東京科学大学)
- IADR Oral Malodor Scientific Network の設置が承認された。

- IADR Costa Rican Division の設立が承認された。
- 2022年 IADR 会計監査報告が承認された。
- 2024 IADR 予算が承認された。
- 2028 IADR General Session の開催地は米国メリーランド州ボルチモア、会期は2028年3月13日—18日とすることが承認された。

今回の Council Meeting において配布された資料では、Japanese Division の会員数の減少傾向が今なお続いていることが示されていました。会員数増加に向けた対策に引き続き取り組まなければならないことを改めて痛感させられました。第72回 JADR 総会・学術大会(鹿児島)、ならびに、スペインのバルセロナで開催される 2025 IADR General Session に向けて、JADR/IADR の入会者が増加していくことを期待しています。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

## VI. 第72回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内

大会長 後藤 哲哉

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科機能形態学分野)

会 期 : 2024年11月16日(土)・17日(日)

会 場 : カクイックス交流センター

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50

大会テーマ : Progressive Spirits in Dental Research: Advancing Oral Health

大会長 : 後藤 哲哉

(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科機能形態学分野)

内 容 : 特別講演、シンポジウム、ランチョンシンポジウム、ポスターセッション、展示、その他

特別講演 : 今里 聡 教授

(IADR 会長、大阪大学大学院歯学研究科歯科生体材料学講座教室)

Nicholas S. Jakubovics 教授

(Journal of Dental Research 編集長、Newcastle 大学)

Christopher H. Fox 氏 (IADR Chief Executive Officer)

Youngnim Choi 教授

(KADR 会長、Department of Dental Science, Seoul National University School of Dentistry)

道川 誠 教授 (日本歯科大学新潟生命歯学部)

William G. Wade (King's College London 名誉教授)

事前参加登録締切 : 2024年11月7日(木)

大会ウェブサイト : <https://jadr72.jp/index.html>

令和6年(2024年)11月16日(土曜日)・17日(日曜日)の2日間にわたって、鹿児島県のカクイックス交流センターにおいて第72回JADR学術大会を開催いたします。今大会のメインテーマは、「Progressive Spirits in Dental Research: Advancing Oral Health」です。

進取の気風(Progressive Spirits)とは、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、従来の慣習にとらわれず、自ら進んで、新しい困難な課題に果敢に挑戦することを意味し、鹿児島大学が根ざす鹿児島という土地に歴史的背景があります。鹿児島大学の起源は、島津重豪が1773年(安永2)年に創設した藩学造士館や1774(安永3)年創設の医学院にさかのぼり、明治維新の原動力となる人材を数多く輩出しました。また、薩摩藩は鎖国中の1865年に、英国へ留学生を派遣し、帰国した留学生は時代を先取りした様々な物事に果敢に挑戦して、日本近代化のリーダーとなり、また、海外で事業を成功させました。このように、進取の気風は、歯科医学研究のバイオニアとして、約70年の永きにわたり日本および世界の歯科医学研究を先導してきた国際歯科研究学会日本部会を、まさに象徴する言葉でもあります。

本大会は、大阪大学の今里聡教授が国際歯科研究学会(IADR)の会長に就任されたことを祝い、祝祭感溢れる会にしたいと考えております。大会プログラムとしては、IADR会長の今里聡教授による特別講演、JDRの編集長であるNicholas Jakubovics教授による特別講演、IADRの事務長であるChristopher H. Fox先生による特別講演、KADR会長のYoungnim Choi教授による特別講演などを予定しています。また、著名な先生方による幅広いテーマでのシンポジウムを企画し、さらに、Rising Scientist Sessionとして、「Frontiers in Neuroscience in Dentistry」をテーマに、国内の若手研究者による研究発表を予定しています。本大会では、コンペティションも拡充し、GC学術奨励賞、Morita Student Award、Lotte学術賞、と多数ご用意しておりますので、学生、大学院生、若手研究者のみならず、日ごろの研究成果をアピールし、切磋琢磨してください。

鹿児島には天然温泉が豊富にありますので、ぜひ、学会の後にゆっくり疲れを癒してください。仙巖園、霧島神宮など歴史的にも由緒ある観光名所もあります。鹿児島焼酎は言わずもがな、鹿児島の黒牛や黒豚など、名物もたくさんあるので、多くの先生方に奮ってご参加いただければ幸いです。

関係者一同、全力で準備に取り組んでまいりますので、多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## Ⅶ. 第73回JADR総会・学術大会 (第6回APR (New Delhi, India)) 開催のご案内

JADR会長 森山 啓司

(東京科学大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野)

第73回JADR総会・学術大会は、2025年6月にNew Delhi (India) で開催される、第6回IADR Asia Pacific Region (APR) 学術大会と併催で行われます。

今大会は、IADR Indian Division を host とし、Japanese Division, Korean Division, Chinese Division, IADR Southeast Asian Division, Indian Section, Mongolian Section, Pakistan Section の共催で行われるものです。国際色豊かな大会で、それぞれのDivision, Section の年次総会もこの大会の中で行われます。この中でJADRはAsia Pacific Regionの歯科医学研究の牽引役として期待されています。多数の会員の皆様の参加を得て大会を盛り上げたいと思います。奮ってのご参加を期待しております。

第73回JADR総会・学術大会

6th Meeting of IADR Asia/Pacific Region (APR) と併催

開催日時：2025年9月19日(金)～21日(日)

開催場所：New Delhi, India (詳細は未定)

主催：IADR Indian Division

## Ⅷ. 第103回IADR総会・学術大会の ご案内(2025年度IADR, Barcelona, Spain)

2025年度のIADRは、6月にBarcelona, Spainにて開催予定です。奮ってのご参加をお願いいたします。

会 期：2025年6月25日(水)～28日(土)

開 催 地：Barcelona, Spain

演題登録締切：2025年1月24日(金)

IX. 第25回日本歯科医学会学術大会  
開催のご案内

会頭 川口 陽子  
(日本歯科医学会副会長)

4年に1度開催される日本歯科医学会学術大会は、我が国の歯科界最大規模の学術大会です。第25回学術大会の開催概要を以下に示します。本大会では特別講演、講演・シンポジウム、e-ポスターセッション（公募）、臨床セミナーなどの学術プログラムの他、海外の歯科医師を対象とした国際セッション、一般市民を対象とした市民セッション等のプログラムを計画しています。なお、国際セッションでは、我が国の特徴的な歯科保健医療制度や最新歯科医学・先端歯科医療技術等に関する講演を英語で配信する予定です。

日本歯科医師会や日本歯科医学会分科会の会員、歯科学生、歯科研修医等の参加登録費は無料です。海外の歯科医師等も事前登録すれば、国際セッションを無料で視聴することが可能です。JADRの会員の先生方のご協力とご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

会期：2025年9月26日（金）～28日（日）

（終了後1か月間オンデマンド配信）

会場：パシフィコ横浜・会議センター

（横浜市西区みなとみらい1-1-1）

テーマ：歯科イノベーションによる新時代の創生

主催：日本歯科医師会、日本歯科医学会

URL：<https://site2.convention.co.jp/25jads/>



**25th JADS**  
**YOKOHAMA 2025**

## CONTENTS

I. 巻頭言	森山 啓司	1	I. After the 2024 IADR/AADOCR/CADR General Session & Exhibition		
II. IADR 会長に就任して～ Let's start research ! Inauguration as the President of IADR – Let's start research !		3	Prof. Keiji Moriyama: JADR President	1	
III. 第 102 回 IADR New Orleans 大会 (2024 年度) 各受賞者報告, 参加報告			II. Greeting of the New IADR President		
1. IADR Distinguished Scientist Award (Research in Prosthodontics and Implants Award) を受賞して 矢谷 博文 (大阪大学)		4	Prof. Satoshi Imazato: IADR President	3	
2. Pre-prosthetic Regenerative Science Award Competition 第 1 位を受賞して 森 里美 (東北大学)		4	III. Reports of the 102nd IADR General Session in New Orleans, LA, USA		
3. 第 102 回 IADR 総会・学術大会参加報告 大川 博子 (東北大学)		5	1. IADR Distinguished Scientist Award (Research in Prosthodontics and Implants Award)		
4. IADR Arthur R. Frechette Award in Prosthodontics Nguyen Van Quang (新潟大学)		6	Prof. Hirofumi Yatani: Osaka University	4	
5. 第 102 回 IADR 総会・学術大会に参加して 中島 純子 (東京歯科大学)		7	2. IADR Prosthodontics Research Group Pre-Prosthetic Regenerative Science Award for Young Investigators		
IV. IADR hatton Award 本選を終えて			Dr. Satomi Mori: Tohoku University	4	
1. Hu Chen (九州大学)		8	3. Prosthodontics Group		
2. 森山 輝一 (大阪大学)		8	Dr. Hiroko Okawa: Tohoku University	5	
3. Lin Xu (大阪大学)		9	4. IADR Arthur R. Frechette Award in Prosthodontics		
V. IADR Council Meeting 報告 森山 啓司		10	Dr. Quang Van Nguyen: Niigata University	6	
VI. 第 72 回国際歯科研究学会日本部会 (JADR) 総会・学術大会開催のご案内 後藤 哲哉		10	5. Hands-on Workshop Proposal		
Dr. Junko Nakajima: Tokyo Dental College		7	IV. 2024 IADR Unilever Hatton Competition & Awards		
VII. 第 73 回 JADR 総会・学術大会 (第 6 回 APR (New Delhi, India) 開催のご案内) 森山 啓司		11	1. Hu Chen : Kyushu University	8	
VIII. 第 103 回 IADR 総会・学術大会のご案内 (2025 年度 IADR, Barcelona, Spain)		11	2. Keiichi Moriyama : Osaka University	8	
IX. 第 25 回日本歯科医学会学術大会開催のご案内 会頭 川口 陽子		12	3. Lin Xu : Osaka University	9	
			V. Report of the IADR 2024 Council Meeting Keiji Moriyama: JADR President	10	
			VI. Announcement of the 72nd JADR Annual Meeting Dr. Tetsuya Goto : Chair of the 72nd JADR Annual Meeting	10	
			VII. Announcement of the 73rd JADR Annual Meeting Keiji Moriyama: JADR President	11	
			VIII. Announcement of the 103rd General Session of IADR in Barcelona, Spain	11	
			IX. Announcement of the 25th Scientific Meeting of the Japanese Association for Dental Science	12	

### ●編集後記●

2024 年は異例の暑い夏となり、10 月になっても夏を経験するくらいでした。この NewsLetter が届く頃には、JADR 学術大会も直前に迫り、多くの会員の先生方が鹿児島へお集まりいただけることと存じます。本 NewsLetter にありますとおり、2024 年は今里聡先生が IADR 会長としての活動を始動され、来年の Barcelona での IADR General Session では本格的にリーダーシップを取られますので、JADR としましても大変楽しみな大会になりそうです。また来年は、3 年毎の APR が New Dheli での開催が予定されており、国際的な活動が続いてまいります。この年末には、JADR が誘致に力を入れている 2029 年の IADR 招致に関する良いニュースが飛び込んできますよう心から願うばかりです。

発行：国際歯科研究学会日本部会 (JADR) <http://jadr.umin.jp>  
 連絡先：  
 国際歯科研究学会日本部会 (JADR)  
 副会長 林 美加子 (大阪大学大学院歯学研究科歯科保存学教室)  
 〒 612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302  
 TEL : 075-468-8772 FAX : 075-468-8773 E-mail : [jadr@ac-square.co.jp](mailto:jadr@ac-square.co.jp)  
 2024 年 10 月 31 日 発行